

## 誓いの言葉

1945年7月20日、何の前触れもなく、岡崎市は約2時間にわたり爆撃を受けました。B-29爆撃機により、1万2千発を超える焼夷弾<sup>しょういだん</sup>が投下され、約280人の尊い命が奪われました。目がくらむほど眩しい光。耳にこびりつく大きな音。突然の出来事に、人々はパニックとなり、ただただ逃げ惑うことしかできない。その日子どもたちはどんな夢を見て、どんな明日に胸を膨らませていたのでしょうか。亡くなった方を思うと、胸が引き裂かれる想いがします。

岡崎空襲から78年が経った今、岡崎の町は、人々の活気に満ち溢れ、平和で豊かな町になりました。この町で、家族が笑いあい、友達と学校へ行き、公園で遊ぶ。気持ちよく明日を迎え、様々な人と会う。そんな当たり前の日常があります。被災された方々の懸命な努力により、こうして力強く復興することができました。現在も、世界では、戦争や紛争により多くの方が悲しみ、苦しんでいます。

互いを憎みあい、どちらかが倒れるまで戦うことに、何の意義があるのでしょうか。誰を幸せにできるというのでしょうか。そこで懸命に生きている人々を、蔑<sup>ないがし</sup>ろにして良いはずがありません。私は人を不幸にする戦争を強く否定します。

すべての人々が平和な世界で安心して暮らすためには、「自分と違う考えをもつ人がいる」ということを認識することが重要だと考えます。そうすることによって、互いを認めあい、他人を思いやることができるからです。一人一人の力は小さくても、思いやりの心を次世代に繋ぎ、互いに助け合うことができれば、いつか世界から、紛争や戦争の原因となる憎しみをなくせると私は信じています。

先人から託された、この緑美しい街、岡崎を二度と失わないように、私たちは平和を強く願い、その大切さを未来に繋いでいくことを誓います。

令和5年7月21日

岡崎女子大学 森 小夏